

葦嶽山(日本ピラミッド)登山記

会員 濱手英之

以前より気になっていた日本ピラミッドに登る機会が突然やってきた。本業で薪ストーブを販売設置している私は秋風が吹くころより工事等で忙しくなり仕事中心の生活となってしまう。そんなとき、広島での仕事が予定より早く終了し、時間ができたのである。遠くに仕事に行くとき、その土地の神社や遺跡をできるだけ寄って直接見るようにしている。三次経由で中国道に向かおうと下道を走りながら考えた。

何処かに、まだ寄っていない遺跡等がないだろうか？ 広島県の北部は意外と山深く、雪も多く降ったりするがたしか三次の古墳は3000基と云われ古代の繁栄が伺われる。

そんなことを考えていると、庄原のピラミッドのことを思い出した。

昭和の始め、酒井勝軍(かつとき)氏により2万3000年前のピラミッドであると発表された葦嶽山(あしたけやま)は広島県庄原市にあり、日本ピラミッドとして有名である。



酒井氏は、山頂にて、直径3mの太陽石とそれを取りまく円形と方形の磐境を発掘し、尾根続きの鬼叫山(ききょうざん)には方位岩や供え物台があり、葦嶽山はその本殿、鬼叫山は拝殿であることを発表した。

その後、この説を異端邪教の類とみなした当時の国家権力によって、頂上の中心岩や敷石等は破壊されたらしい。また、高さ数メートルでたくさん立っていたらしい神武岩のような角柱もほとんど倒されている。



以前から一度は行ってみたいと思っていた場所だ。早速ネットで場所を調べ、ナビで向かう。便利なものである。

天気は曇り、時々雪と条件は良くはないが、私はこの時点で日本ピラミッドを甘く考えていた・・・



お昼前であったが、近くに店も無く、とりあえず登ってみようと思い、看板に従って進むと、登山コースの方に行ってしまった・・・ もう一つファミリーコースというのがあるはずだが、わからず、時間もないのでそのまま上ることとする。頂上まで1.6kmとの表示がある。何とかなるだろうとカメラと、タオルと手袋と歩きやすい靴で出発。このとき、飲料を忘れるという間違いをおこす。

しばらくは、ゆるい歩きやすい道が続く。歩道には枯葉の絨毯があり、ところどころ雪が残っているが、快適な道である。川のせせらぎを聞きながら登っていると小雪が降ってくる。こんなところで遭難するはずはないだろう・・・なんて考えながら急斜面で立ち止まり、また登り始めたところで事件が起きた。「ズ・ザザザザッ！！」という大きな音とともに左斜め上から何か落ちてくる。石か、枯れ木が落ちているのかと思わず身構えると、ほんの6～7m程後ろを物体が落ちていく。とりあえず無事だった・・・と思いながらよく見ると大きなイノシシである。しかも2頭が連なってそのまますごい勢いで縦走している・・・当たらなくてよかった・・・

猪突猛進とはよく言ったもので、すごい勢いであっという間に視界から消えた。写真は撮れなかった・・・残念。



こんなのが2頭で爆走



登山コースと書いてあったが、山頂近くはまさしくそうである。急斜面や岩場を登っている。喉

(のど)が渇く。何度も引き返したくなる衝動を抑える。振り返ると、ガスってはいるがかなり高いところまで来ているようだ。木に遮られて上も良く見えない。半べそを書きながら、上の休憩所まで辿(たど)り着く。

そこから、まずは葦嶽山へ。数十メートル登る。頂上には数畳の広場がある。昭和初期まではここに直径3mの太陽石があったらしい・・・そして、隣の鬼叫山に行く。ここには素晴らしい磐座が残っている。神武岩をはじめ、明らかに加工された巨石が待っていてくれた。頑張っで登ったかいがある。

日本中の見晴らしの良い山の上には、まだまだたくさんのお宝が残っているだろう。これからもいろいろな磐座に逢いに山に登りたい。



広島県庄原市本村町 葦嶽山(日本ピラミッド)

問い合わせ先:庄原市商工観光課

電話 0824-73-1179

また、近くにある蘇羅比古神社の狛犬は空を向いています。